

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(高校生コース)留学結果報告書

私は、8月6日から23日オーストラリアのパースに留学し、Peter Moyes Anglican Community Schoolに通いました。パースはオーストラリア南東部にあり、学校は海の近くに位置しています。

私は、オーストラリアの文化を肌で感じ、自分の価値観や考え方をもっと広げていきたいと思い、留学しました。また、生の英語というものに触れ、英語のリスニングやスピーキングの力をもっと向上させたいと思いました。

オーストラリアでは、私はスクールバディーとともに、学校の授業に出席しました。私で、バドミントンややり投げをやりました。地元の高校生は、日本人と違い、高校生でも体格がよく、ほとんどの人が、運動神経がいいように思いました。私は英語の授業は、とても難しく、私には理解することはできませんでした。しかし、数学は非常に簡単で、ついていくことができよかったです。内容を理解していれば、授業で使用する言語はそれほど問題にはならないと思いました。どの授業も、スクールバディーと一緒に楽しむことができ、また、たくさんの高校生と話すことができたので、聞く力や話す力も上げることができてよかったです。自分と同世代の人が何に興味を持って何を楽しんでいるか知ったことで、自分の世界が広がったような気がしました。

また、私は日本人グループとともに、キャバーシャムワイルドライフパーク、キングスパーク、パース市などのパースの観光スポットに行ってきました。

キャバーシャムワイルドライフパークは、動物園です。日本では見ることのできない、多くの動物があり、私が初めてコアラやカンガルーに触れました。しかし、カンガルーはたくさんいましたが、コアラはたったの4匹しかいませんでした。従業員の人に理由を聞いてみると、コアラは人間が触れるだけで、多大なストレスを感じてしまうからだそうです。だから私たちは、動物との触れ合い方について、もっと考えるべきだと思いました。日本の動物園の良いところやオーストラリアのキャバーシャムワイルドライフパークの良いところをそれぞれ取り入れていくべきだと思いました。

次に、キングスパークという植物園に行きました。オーストラリア各地からの植物がたくさんありました。この植物園は、オーストラリアの気候に分けられていました。だから、植物を管理することは非常に難しいそうです。そして、私は、オーストラリアの自然について多くのことを学ぶことができました。オーストラリアは、乾燥気候や、地中海性気候など、より多くの気候の種類があるので、多くの植物が育つことができ、日本よりも多くの植物があります。地理の授業で学ぶようなオーストラリアの知識と実際の植物園の植物が結びついて、とてもおもしろいと思いました。

次に、パース市を訪れました。多くの高層ビルがあり、とても美しい街でした。私たちはそこで、アメイジング・レースをやりました。アメイジングレースとは、紙に書いてある目的地を探し、そこでミッションをこなしてゴールまでたどり着くゲームです。これは、オーストラリアの有名なゲームだそうです。私のチームは、途中でいくつかの場所に、寄り道してしまったので、ゴールに行くことができませんでした。しかし、オーストラリアのいろいろなものが見ることができて、本当に楽しかったです。オーストラリアの人々は、道を聞くと笑顔で答えてくれ、とても優しく、フレンドリーだと感じました。

別の日、私たちは、カーティン大学を訪問しました。私たちは、カーティン大学の学生と話をしたりしました。私のチームの学生は流暢に日本語を話していましたが、彼がわずか3年しか日本語を勉強していないことに、私はとても驚きました。その時、私は、外国の人は努力家なんだと思いました。

休日には、私は私のホストファミリーとピナクルズを訪れました。ピナクルズは、世界遺産であり、非常に大きく、私は自然の壮大さを感じました。

最終日、私は学校でプレゼンテーションを行いました。とても緊張しましたが、自分のベストを尽くすことができ、本当によかったです。異なる文化を持った相手の前で自分の発表を出来たことは、これからの私にとって自信になると思います。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(高校生コース)留学結果報告書

留学を通じて、私は、異なる文化や自分と違う価値観に触れることの、大切さを知りました。そして、オーストラリアの人たちは、とても親切にしてくれ、私もこの人達のように広い心をもって、たくさんの人を助けることができるような人になりたいです。また、多くの自然に触れたことで、この美しい自然を、百年後、千年後、もっと先まで繋げていくことが、私たちの義務なんだと思いました。だから、これからは学校や地域といった狭い範囲だけでなく、もっと世界という広い範囲に目を向けて、歩んでいきたいと思いました。